

完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 滋賀県大津市京町四丁目1番1号
管理機関（代表の機関）名 滋賀県教育委員会
代表者名 福永 忠克

令和4年度マイスター・ハイスクール事業に係る完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和4年4月1日（契約締結日）～ 令和5年3月31日

2 管理機関

①管理機関（市区町村・都道府県）

ふりがな	ひこねし
管理機関名	彦根市
代表者職名	市長
代表者氏名	和田 裕行

②管理機関（産業界）※2団体以上ある場合は、適宜、欄を追加して記入してください。

ふりがな	ひこねしょうこうかいぎしょ
管理機関名	彦根商工会議所
代表者職名	会頭
代表者氏名	沼尾 護

③管理機関（学校設置者）

ふりがな	しがけんきょういくいいんかい
管理機関名	滋賀県教育委員会
代表者職名	教育長
代表者氏名	福永 忠克

3 指定校名

学校名 滋賀県立彦根工業高等学校
学校長名 大久保 貴生

4 事業名

変化への挑戦（Challenge for Change）
～進取の気性を生かし持続可能な新たな地域産業を共創できる技術人財の育成～

5 事業概要

伝統技術等のビッグデータ分析など ICT・デジタル教育で連携を図りながら、社会的課題を新たなチャンスととらえ、高付加価値を持つ産業へと創出できる“人財”を多様な主体の共創により育成するシステムを構想する。

絶えず革新し続ける最先端技術と滋賀の風土が培ってきた伝統産業等の技と心を生かし、地域産業界と彦根工業高校が一体・同期化し、郷土愛にあふれた人財育成によって地域を活性化させ、ICT&歴史都市という未来像の実現に資するもの。

6 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している
- ・教育課程の特例の活用 活用していない

7 意思決定機関の体制（マイスター・ハイスクール運営委員会）

氏名	所属・職
和田 裕行	彦根市・市長
小出 英樹	彦根商工会議所・顧問
竹村 慎司	滋賀大学・学長
廣川 能嗣	滋賀県立大学・学長
福永 忠克	滋賀県教育委員会・教育長
大久保 貴生	滋賀県立彦根工業高等学校・校長

8 事業推進機関の体制（マイスター・ハイスクール事業推進委員会）

氏名	所属・職
青木 政義	(株) SCREENホールディングス・CEO
橋岡 由男	(株) 清水合金製作所・産業実務家教員
野崎 孝志	彦根商工会議所・専務理事
稲野 善行	彦根市産業部・次長
山根 浩二	滋賀県立大学・副学長
森野 実知子	滋賀県商工観光労働部モノづくり振興課・課長
横井 正弘	滋賀県教育委員会事務局高校教育課・課長
大久保 貴生	滋賀県立彦根工業高等学校長・校長

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プロジェクションマッピング協力 (彦根市)							彦根城取材協力	発表会 参観	市庁舎 試写			素材提供
マイスターキャンプ 避難所訓練指導 (彦根市)									○			

ドローン講習 協賛 (彦根商工会議所)							○	○			○	
ブラッシュアップ 実習 講師探し (彦根商工会議所)									←			→
プログレス実習 候補先企業探し (彦根商工会議所)									←			→
カンパニー活動 連携 (彦根商工会議所)				○								
運営委員会、事業推 進委員会 主催 (滋賀県教育委員会)			○	事業推進委員会	6/14					(○	事業推進委員会	1/25 は
		◎	◎	運営委員会	7/29					◎	◎	大雪のため中止)
										◎	◎	

(2) 実績の説明

ア 彦根市

彦根市からは、本事業の推進にあたり多方面にわたり多大なる御支援・御協力をいただき深謝いたします。具体的な内容は以下の通り。

(ア) プロジェクションマッピングに関する協力

3年生電気科情報系の12名が10月21日にプロジェクションマッピング用素材の撮影を彦根城で行い、その後の授業で撮影した映像をプロジェクションマッピング用に加工・編集し、11月11日には本校にて彦根市職員2名の方をお招きし、動画の選考会を行った。映像をご覧いただき、多くの助言をいただいた。また、12月23日には彦根市庁舎壁面に同作品を投影させていただいた。また、制作にあたり彦根城やキャラクターなど多くの素材提供をいただいた。

(イ) マイスターキャンプ 避難所訓練指導

防災教育を通じて、マイスター・ハイスクール事業におけるリーダー養成を目指すマイスターキャンプを彦根市荒神山自然の家において12月16日、17日の2日間に渡り開催した。彦根市危機管理課の指導の下、避難所の開設や運営の訓練を行い、また避難所での寝食を体験できた。

イ 彦根商工会議所

彦根商工会議所からは、本事業の推進にあたり多方面にわたり多大なる御支援・御協力をいただき深謝いたします。具体的な内容は以下の通り。

(ア) ドローン講習にかかる寄付

ドローンの機器製作と操作講習に関する費用について協賛していただき、計4回の講習を実施できた。

(イ) ブラッシュアップ実習 講師探し

令和5年度の2年生において計画している学校設定科目「ブラッシュアップ実習」における建設科講師の候補者探しをしていただいた。

(ウ) プログレス実習 候補先企業探し

令和5年度の3年生において計画している学校設定科目「プログレス実習」の「デュアルシステム」を実施したく生徒受入れ可能な候補先企業探しをしていただいた。

(エ) カンパニー活動における連携

彦根商工会議所青年部と2年生の有志が連携し、カンパニー活動「ものづくり×SDGs」に取り組んだ。このカンパニー活動は企業の「困りごと」を工業高校生視点で解決する

アイデアや新商品を企画・立案し提案するものであり、令和3年度2月から取り組み、令和4年度5月には6つの企画動画を提案させていただいた。その取り組みを行った生徒が彦根商工会議所青年部主催のイベント「Hikone Work Academy～語り合おう私たちの未来について～」に参加させていただき、「ものづくり×SDGs」で取り組んだことや今までの経験を交えながら交流ができた。ディスカッション後にはグループを代表して発表した。

ウ 滋賀県教育委員会

(ア) 運営委員会、事業推進委員会の開催

運営委員会を年2回開催し、すべての事項の意思決定・統括を実施した。「マイスター・ハイスクールビジョン」の評価検証・改善、進捗管理、等を行った。また、事業推進委員会を年1回開催し、「マイスター・ハイスクールビジョン」に基づき育成すべき人材像の育成に必要な具体的な施策立案、施策の評価検証、大学や彦根市、産業界（彦根商工会議所）との連携、等を行った。

(イ) 文部科学省の代表窓口と指導

本事業における文部科学省の代表窓口となり、各種報告書類の指定校への作成依頼や指導、とりまとめを行った。

(ウ) 教員配置における時数配慮

令和4年度から開設した学校設定科目「ブラッシュアップ実習」を実施するため、教員の配置を平年より18時間分追加した。

(エ) マイスター・ハイスクール CEO および産業実務家教員の採用

令和4年度よりマイスター・ハイスクール CEO および産業実務家教員を常勤の教職員として新規採用し、本事業を着実に推進させる体制を整えた。

10 事業の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
近江マイスター												
事前学習会	○											
校外学習 (国民休暇村、琵琶湖博物館)		○										
インパクトラボ 講演			○									
笑顔いっぱい プロジェクト			○ 応募		○ 滋賀大コラボ			○ 表彰				
大学講義・企業見学 (事前・見学・事後)						○						
SDGsを学ぶ (滋賀県立大学)						○						

操作技術習得 文化祭展示								←							→
研究成果の公開・普及															
指定校 中間成果発表会 (文部科学省主催)														○	
成果発表会 (本校主催)															○
広報活動 HP 掲載、SNS 発信、 Genko 通信、チラシ等	←														→
運営															
運営委員会 ◎ 事業推進委員会 ○			○	事業推進委員会 6/14										(○ 事業推進委員会 1/25 は 大雪のため中止)	
			◎	運営委員会 6/20										運営委員会 2/10 ◎	
MHS 校内推進委員会	←														→

(2) 実績の説明

ア 近江マイスター（1年生対象 学校設定科目）

大学や企業から未来の産業社会や地元彦根の地場産業について学び、ものづくりやSDGsの取組を通して自分の進む道を想像する。また、課題に対して新しい解決法を考える力、他者の意見に耳を傾けながら自ら深く考え自身の言葉で表現できる力、いかなる集団においても望ましく円滑な人間関係を築く力を身に付けることを主眼とする。

(ア) 事前学習会

マイスター・ハイスクール CEO、産業実務家教員からの「マイスター・ハイスクール事業を学ぶ意義」や「地元彦根の産業」、「社会人になるために大切なこと」などの講話を受けた。

(イ) 校外学習

近江マイスターの授業の一環で国民休暇村・琵琶湖博物館を訪問した。国民休暇村ではクラスごとにイカダづくりを行い、クラス内の親睦を図るとともに、琵琶湖の環境に触れることで、環境学習をより身近なものに捉えることができた。琵琶湖博物館では、琵琶湖の生態系について学び、MLGsの基礎となることを体験した。この1日の活動を通して、生徒は滋賀県の環境について様々な側面から学習できた。

(ウ) インパクトラボによるSDGs・MLGs学習

一般社団法人インパクトラボの代表理事を務める上田隼也様による「わたしとSDGs～SDGsで世界を変える挑戦～」の講演を開催した。「わたしとSDGs」「SDGsクイズ」「滋賀県とSDGs」という題目で進行され、SDGsを学び、語ることができるようになることを目標に、生徒たちは前向きに取り組むことができた。また、SDGsの17の目標の一つ一つに焦点をあてて、クイズ形式で発問して頂き、生徒たちは主体的にSDGsに関する知識を深めることができた。最後に滋賀県とSDGsという観点で、琵琶湖を題材として取り上げ、MLGsも含めて生徒たちの学びを促進する講話をして頂いた。琵琶湖を通じて、SDGsとどのように関わることができるのかということ、イラストを使って説明して頂いた。

(エ) 彦根発、笑顔いっぱいプロジェクト

このプロジェクトは、同じ彦根市に拠点を持つ企業として株式会社平和堂、麒麟ビール株式会社（滋賀工場）、株式会社ブリヂストン（彦根工場）が滋賀大学と連携して行われているもので、地域住民との交流、地域資源の発掘や地域課題を発見・解決へ取り組む経験を通じ、高校生が自ら考え行動し、夢に向かってチャレンジする力の醸成と地域への深い理解を促進することを目的としている。

本校では「近江マイスター」の一環で1年生が企画について考え、応募した。その中から、優秀賞として「5R とフリーマーケット」が、アイデア賞として「彦根で新しい宿泊体験を!!」、「彦根の隠れパワースポットを知ろう」が選出された。優秀賞に選ばれた建設科の生徒は夏休み期間中に滋賀大学の学生と協力し、企画の実現に向けて取り組んだ。今回は惜しくも最優秀賞には選ばれなかったが、「学校生活ではなかなか体験することができない貴重な経験だった。」と振り返ってくれた。

今回の経験を通じて、今後も生徒たちの柔軟な発想でまちづくりに参画してくれることを期待している。

(オ) 大学講義・企業見学

自分の将来について考えるきっかけとして、滋賀県立大学での講義体験や希望するコースに分かれての企業見学を実施した。大学での講義では本事業の事業推進委員でおられる山根教授からカーボンニュートラルについて学び、環境問題への意識が高まった。

企業見学では地場産業：匠の技を学ぶコース、先端技術を学ぶコース、環境技術を学ぶコースに分かれて見学を行った。企業ではわかりやすく丁寧に仕事について説明していただき、学校に戻ってからは感想を述べあう姿が見られた。1年生から企業や大学を見学できたことで将来のキャリアデザインに大きな影響を与えられたと考える。大学や企業には、本事業の推進にあたり多方面にわたり多大なる御支援・御協力をいただき深謝いたします。

<見学先企業 13社>

匠の技：(株) 清水合金製作所、井上仏壇、(株) 永楽屋仏壇工場

先端技術：(株) SCREEN ホールディングス彦根事業所、サカタインクス(株) 滋賀工場、(株) 坂本金型工作所滋賀工場、(株) ナイキ彦根工場、日世(株) びわ湖工場、日本電気硝子(株) 能登川事業所、パナソニックホームズ(株) 湖東工場、フジテック(株) Big Wing、(株) 村田製作所八日市事業所

環境技術：夏原工業(株)

(カ) SDGs を学ぶ 滋賀県立大学「近江楽座」講演

昨年に引き続き、滋賀県立大学の学生が取り組む地域貢献プロジェクト「近江楽座」の学生を講師に迎え、オンライン講義を行った。今回は「あかりんちゅ」、「県大生き物研究会」に所属されるお二人にプロジェクトの活動内容やその目的、SDGs とのつながりについて、わかりやすく講演をしていただいた。

(キ) カンパニー活動説明会

1年生にむけて、現在活動中の2年生のうち3名の生徒が中心に取り組んでいる「カーボンニュートラルを学ぶ」という題目で、ユーグレナや植物を使用した環境に優しい素材の開発に取り組んでいる本活動の魅力をオンライン形式で紹介してくれた。その結果、1年生は40名を超える生徒が本活動への参加を表明し、その生徒たちがこれからのような取り組みをしてくれるか非常に楽しみにしている。

(ク) 伊藤忠兵衛記念館 講話

近江商人の心について学ぶため、伊藤忠兵衛記念館（公益財団法人 豊郷済美会）の常務理事に講演をしていただいた。伊藤忠商事株式会社や丸紅株式会社を創業された初代伊藤忠兵衛氏の生涯を辿りながら、「三方よし」の教えなど近江商人としての精神について学んだ。今後はこれらの教えを心に留め、今後のものづくりに生かしてもらいたい。

イ ブラッシュアップ実習（2年生対象 学校設定科目）

今年度から各クラス10名4班の通常実習に加え、10名程度のブラッシュアップ実習班を新設し、合計5班体制で実習を行った。従来の実習からよりレベルアップした内容を行う希望者による選択制の実習としている。専門家の講師を依頼し、プロから高度な技術・高度資格の習得を目指すと共に、外部講師との関わりを通して社会人としての当たり前を学ぶことも重要視している。

（ア）機械科

技能検定（普通旋盤作業・機械検査作業）の資格取得を目指し、普通旋盤作業では令和3年度におうみの名工を受賞された方をお迎えし、技術のみならず、本校生徒に身につけてほしい資質や企業で取り組まれている安全活動、KYT、5S活動についてご指導いただいた。機械検査作業では、滋賀職業能力開発短期大学の先生にお越しいただき、測定理論や手順について学んだ。

（イ）電気科電気系

第二種電気工事士および第一種電気工事士の資格取得を目指し、企業内研修所で講師をされている方をお迎えし、資格取得のための学科対策や実技のご指導をしていただいた。また、滋賀職業能力開発短期大学校において、シーケンス制御の講習を2日間計6時間受講した。いずれの授業にも生徒たちはとても熱心に取り組んでいた。

（ウ）電気科情報系

プロジェクションマッピング実施に向けたプログラム学習に取り組んだ。1月には制作した作品を本校校舎壁面に投影し、投影位置、色彩、見栄えなどを確認した。また、その様子を運営委員会において披露した。

（エ）建設科

建築系大学進学を目指す生徒を対象とし、大学で講師をされる方をお迎えして、建築パース着彩・3D-CADについて取り組んだ。建築パース着彩では透視図法、作図練習、着彩実習を行った。3D-CADではモデリング、レンダリング、建築プレゼンテーションを学んだ。

ウ ブラッシュアップ英語（2年生対象 学校設定科目）

県内では製造業における外国人労働者の割合がコロナ禍においても増加傾向であることや製造業においても海外勤務や海外取引に関わる可能性があることから、外国人とのコミュニケーションスキルの必要性が高まっている。ブラッシュアップ英語は英語に興味のある生徒の選択授業で、彦根市にあるミシガン州立大学連合日本センターから講師をお迎えし、学習に取り組んだ。この学習を通して生徒自身の意見や考えを英語で伝える発信力を身に付けると共に、語学力だけでなく交流から異文化を学ぶことも重視した。

（ア）異文化交流

ブラッシュアップ英語を選択する生徒が英語と他国の文化を学ぶため、ウクライナの家庭料理「グレンキ」作りに挑戦した。講師としてウクライナの家庭料理をキッチンカーで販売されているイリーナさん・カテリーナさん親子をお招きし、調理工程を英語で説明していただいた。また、ミシガン州立大学連合日本センターからステフ先生、イン

パクトラボからお二人の方にもお越しいただき、和気あいあいとした雰囲気英語を学ぶことができた。

生徒もつたない英語ながらもジェスチャーを交えて、講師の先生と会話する姿が見られた。

(イ) 英語で SDGs を学ぼう

以前から本校の SDGs、MLGs についての学習をサポートしていただいている一般社団法人インパクトラボから講師をお迎えし、英語で SDGs についての学習を行った。講師のお二人の経験も交えながらクイズ形式で SDGs に関わる学習を行い、最後には自分たちのできることを紙に書いて発表した。SDGs について学びながら、それらに関わる英単語などわかりやすく解説していただいた。

エ プロGRESS実習の試行（令和5年度の3年生対象 学校設定科目）

2年生ブラッシュアップ実習を履修する生徒が3年生進級時に履修する学校設定科目で、令和5年度の本格実施に向けて、今年度はモデルケースづくりのために産業実務家教員の所属される(株)清水合金製作所様に4名の生徒がお世話になった。週1回6時間の時間を使って、年間20日程度の実習を実施した。4月から新入社員と同等の研修が始まり、その後は開発部門や製造部門の改善業務に関わらせていただいた。参加した各生徒には担当講師となる社員の方についていただき、企業における現場の課題解決にかかわる実習を経験させていただいた。また、参加した生徒はPROGRESS実習を通して工業分野への興味が高まり、もっと学びたいと進学を希望するようになった生徒も出てきた。

- ・実習場所 (株) 清水合金製作所
- ・対象生徒 機械科 3年生 4名
- ・期 間 4月から12月 年間約 20回(20日)
- ・実習内容 バルブ・水処理装置の改善、生産現場の作業効率及びの品質改善 等

オ 長期インターンシップ

「長期インターンシップ」として、2年生に従来の3日間コースに加え5日間から10日間のコースを新設した。実施にあたっては彦根商工会議所、彦根市役所と連携し、滋賀県湖東地域を中心とした産業界の協力を得て、地域の企業等の実践の場で、自身が「何がどれだけできるのか」を試し、鍛える機会を作り、産業人としてのたくましさを身に付けることを目的とした。特に10日間コースでは単なる体験ではなく、可能な限り企業が抱える課題解決におけるスタッフ職の一員として受け入れてもらえるような体験となるよう事前に企業に依頼した。生徒各自には、事前指導において実習先企業に合わせたテーマを持たせるようにし、主体的に課題に取り組み、解決へと導く力を育成できるように工夫した。

また、企業が実施するSDGsに関する取組等、社会貢献活動について学ぶ絶好の機会となった。

<参加実績>

日数	企業数	生徒数
4～5日間	20社	41名
7～9日間	9社	14名
10日間	17社	31名
上記合計	46社	86名
3日間	79社	135名
総合計	125社	221名

カ プロジェクションマッピング

3年生電気科情報系の課題研究でマルチメディア班12名が彦根城や玄宮園で撮影した映像をプロジェクションマッピング用に編集し、校内で動画の選考会と発表会を行った。彦根市企画振興部・産業部のお二方をお招きした選考会では映像をご覧いただき、多くの助言を頂戴した。また、本校教員に向けてテーマや工夫した点を加えながら発表した。いずれの作品も今まで学習したことを生かし、見ごたえのある映像に仕上げることができた。

また、同作品を本校建設棟校舎壁面にて、さらに別の日に彦根市の協力の下、彦根市役所の壁面に投影した。生徒作品の他に、彦根市が全国に誇るゆるキャラ『ひこにゃん』などの画像も投影し、投影位置や色彩などを確認した。彦根市役所前を通行される方が足を止めて見学される様子も伺え、今後の動画製作のモチベーションが向上した。

キ キャンパニー活動

少人数のグループで、ものづくりや社会に貢献できる企画を自分たちで企画し取組を進めた。工業高校生の持つオリジナリティーを大切にしながら、経営者的な視点を持って未来の産業社会に携わるための力や企画力、オーナーシップを育てることを目標とした。

(ア) 「ものづくり×SDGs」 彦根商工会議所青年部協力企画

課題解決について学ぶために、令和4年2月に彦根商工会議所青年部に所属される企業にそれぞれの企業おける困りごとについてのアンケートに協力いただいた。アンケート結果からカンパニーごとに取り組みたいテーマを決め、工業高校生視点で解決案を立案し発表した。合計6カンパニーが取り組み、各5分程度の解決案をまとめた企画動画をYouTubeで配信し、青年部から評価や助言をいただいた。その後の彦根商工会議所青年部のイベントにも招待していただき、各カンパニーの取り組み発表やSDGsについてのディスカッションに参加し交流を深めた。自分たちの取り組みが企業から評価されることで自己肯定感が高まったと感じている。

(イ) 「カーボンニュートラルを学ぶ」 滋賀県立大学等連携プロジェクト

～バイオ技術と工学技術を用いた環境循環型社会に向けた実験～

昨年に引き続き、滋賀県立大学や企業との連携プロジェクト「カーボンニュートラルを学ぶ」に取り組んだ。これは、微生物であるユーグレナを混合した培養土で育てた菜の花から始まるカーボンニュートラルの取り組みである。

① 菜種・ひまわり種の収穫・栽培

搾油用の菜種、ひまわり種を収穫した。(株)ユーグレナ様から提供を受けたユーグレナを混合した培養土と通常の培養土での育成状況を比較した結果、ユーグレナを混合した培養土で育てた植物の方が種の収穫量が多いことがわかった。

② バイオプラスチック製品の開発

・菜の花レジンの製作

菜種を搾油したときの搾りかす(残渣)の活用方法を模索する中で、バイオプラスチックの原材料の一部として利用することを考え、(株)バイオマスレジホールディングスに残渣を10%配合した菜の花レジンペレット(PLA)を製作していただいた。

・ネームプレート・偉人名言プレート・小倉百人一首の製作

滋賀県東北部工業技術センター長浜庁舎の施設を借用し、菜の花レジンペレットをプレート状に加工した。カーボンニュートラルの取り組みを知っていただくために、

プレートにネームプレートに加工し、滋賀県知事含め多くの方々に贈呈した。また、「近江マイスター」で学んだ近江商人や企業創業者の方などの名言が印字された偉人名言プレートを製作した。そのプレートは本県のふるさと納税制度の返礼品に登録され、報道にも取り上げていただいたことで大きく注目された。

さらに取り組みの発展として、1年生が国語の授業で学ぶ小倉百人一首のかるたをバイオプラスチックプレートで製作した。かるたはテーマごとに分類し、それぞれのテーマに応じた飾りもバイオプラスチックで製作した。製作したかるたは小倉百人一首の全国大会で有名な近江神宮や紫式部ゆかりの石山寺にも展示し、こちらも報道から大きく取りあげていただいた。

ク マイスター防災キャンプ

防災教育を通じて地域のリーダーになる資質向上を目的としたマイスター防災キャンプを実施した。彦根市役所危機管理課の協力の下、本校や地域の体育館が避難場所になることを想定した訓練や避難所での防災食・宿泊体験、コミュニケーション研修を通して自分や他人を認め合う体験を行った。

二日間を通して、参加生徒は普段の学校生活では関わることのない生徒同士や外部機関との交流を経て、防災に関する知識を身につけることができた。

ケ ドローン講習

彦根商工会議所の協賛を受けて、マイコン部の希望者10名がドローンに関する講習を受講した。講習では、手のひらサイズのマイクロドローンとよばれる機体を生徒の手で自ら製作した。製作した機体を使って飛ぶ仕組みや基本的な操作方法を教わり、飛行練習をした。最初は目視飛行から始まり、習熟してくると First Person View (FPV) と呼ばれるゴーグルをつけた状態での目視外飛行の練習をした。製作した機体は校内文化祭のマイコン部コーナーにて展示・披露し、活動内容を紹介した。次年度以降も部活動として継続し、後輩へのノウハウ伝授も含め技術の継承を進める。

コ 研究成果の公開・普及

(ア) 指定校による「中間成果発表会」(文部科学省主催)

各地域における特色ある取組の成果と今後の展望について発表する文部科学省主催の令和4年度中間成果発表会が、令和4年11月にマイスター・ハイスクール指定校16校をはじめ約200名参加のもとで開催された。本校は、「変化への挑戦(Challenge for Change)～進取の気性を生かし持続可能な新たな地域産業を共創できる技術人財の育成～」をテーマに、これまでの様々な取り組みを発表した。本校からの参加者は、他校の興味深い成果を聞く中で本校に置き換えてできることは何かを考え、これからの取り組みを見つめ直すとても良い機会となった。この場で得たことを生徒に還元し、本校が工業高校のモデル校となれるよう、引き続き変化への挑戦を実行する。

(イ) 成果発表会(本校主催)

令和5年2月に成果発表会をひこね市文化プラザにて開催した。第一部では、各学年代表者が工業各科の課題研究の取組やインターンシップでの就業体験、マイスター・ハイスクール事業の取組紹介などを発表した。関係事業所や関係機関・学校機関から約90名、本校生徒などを含め総勢約600名の参加のもと、発表生徒は大勢の前で発表という今までにない経験をした。第二部では、株式会社アスタリスク代表取締役社長鈴木規之様より「人生成功のコツと、会社設立の勧め」と題した講演をしていただいた。

(ウ) 広報活動

研究の取り組み状況や様子などを従来の Web ページに加え、新たに Instagram などの

SNS ツールを利用し、より多くの世代向けに情報発信した。また、広報誌「Genko 通信」を年間通して発行し、Web ページ上で公開した。また、取組の様子がテレビニュースや新聞などメディアに何度も取り上げられ、県民から大きな反響を得るなど本校の活動を知っていただく良い機会となった。

さらに、本事業の一環で学校独自の PR 動画を作ることになり、撮影のために株式会社ソフィア（※）様から 2 名の担当者が来校され、2 日間に渡りプロの視点で動画の撮影が行われた。出演した生徒は緊張の面持ちながらも本校の PR に努めた。

※ 株式会社ソフィア・・・文科省から指定を受けた本事業の伴走支援受託会社

サ 各種委員会の開催

(ア) 運営委員会の開催

令和 4 年 6 月及び令和 5 年 2 月に運営委員会を開催し、マイスター・ハイスクール事業の研究計画・研究内容の妥当性や方向性についての協議、実施にあたっての指導・助言、各事業の評価及び研究全体の評価とその妥当性等について議論した。

(イ) 事業推進委員会の開催

令和 4 年 6 月に事業推進委員会を開催し、マイスター・ハイスクール事業全体の流れと各事業の関連性についての指導・助言、事業ごとの評価及び研究全体の評価等について議論した。（令和 5 年 1 月開催予定の第二回目は大雪のため中止）

(ウ) MHS 校内推進委員会の開催

本校内での研究計画・研究内容の検討・実行・検証や校内全体への周知・一体化等を目的として、CEO、産業実務家教員、マイスター・ハイスクール推進室員、工業科各科長、教務部長、学年主任で構成する MHS 校内推進委員会を立ち上げた。委員会は毎月 1 回開催し、各取り組みの進捗状況や課題の共有化を図り、事業が円滑に進むよう必要な調整を実施した。

1 1 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 成果

ア 教育課程の新規開設

令和 4 年度に学校設定科目「ブラッシュアップ実習」及び学校設定科目「ブラッシュアップ英語」を新規開設し、年間計画に従って予定通り授業を進めることができた。また、令和 3 年度に開設した学校設定科目「近江マイスター」も発展・進化した様々な内容で進められた。

さらに、令和 5 年度新設予定の学校設定科目「プログレス実習」の試行においても、モデルケースとなる取組事例ができ、新たな実習先開拓に大いに役立った。

イ 長期インターンシップ

滋賀県湖東地域を中心とした産業界 125 社の協力を得て、2 年生全員がインターンシップに参加した。生徒はインターンシップに参加することで様々な気づきの中から自分が将来なりたい姿を見つけるヒントを得て、今後の学生生活を充実させるような体験ができた。また、実習先となる企業、関係機関の新規開拓が多数行われたことで、次年度以降も様々な職種の実習先から選択できる体制が整えられた。

ウ 課外活動 カンパニー活動

令和 3 年度から取り組んでいる生徒主体の課外活動であるカンパニー活動を近隣の大学や企業と連携しながら取り組みを深めてきた。生徒はこの活動を通じて多くの大人や社会から認めもらえるなど、生徒の非認知能力向上に効果があったと考える。

エ 広報活動

様々な取組成果が多くのメディアに取り上げられ、ものづくり技術者を目指す生徒の自己肯定感や自己有用性を高めることになったと考える。

1 2 次年度以降の課題及び改善点

令和5年度は事業最終年度の総仕上げと事業終了後の令和6年度以降の自走化にむけた自走化エコシステムの構築の両方が求められる。運営にあたっては、自走化を見据え事業の取捨選択を検討するなどアクセルとブレーキの双方を勘案した判断が求められることが予想される。その中でも重点的に進めなければならない課題は以下の通りである。

(1) 管理機関を中心に産官学が一体となった共創体制づくりとその継続

管理機関（彦根商工会議所、県、彦根市）おのおのが主体者意識をもって、自走化のため本事業に関わり、彦根工業高校をサポートしていく共創体制づくりを進める。

(2) 教員や事業予算の持続的・安定的な確保

自走化のための持続的かつ安定的な教員および事業予算の確保を進める。予算確保にあたっては、県財源確保、クラウドファンディング、滋賀応援寄付、独自寄付金等を検討する。